



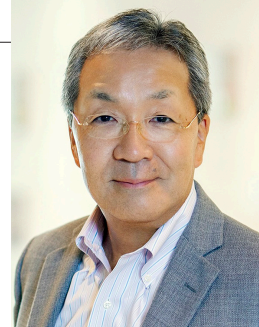
紹介者

今井 斗志光

豊田通商  
社長・CEO

平手 智行

グーグル・クラウド・ジャパン  
日本代表



## AIは日本社会の構造的課題解決に 高い親和性を有する

生成AIの進化は目覚ましく、ビジネスのあり方を根本から変えようとしています。多くの企業が「試す」段階を終え、実際の業務に「活用」し、基幹業務に「組み込む」ことで具体的な成果を上げ始めています。

過去2年に起きた生成AIによるイノベーションは序章に過ぎません。次なる変革の主演として期待されるのが「AIエージェント」です。AIエージェントは、人間のように自律的に思考・判断し、計画立案から実行までを一気通貫で行う能力を持ちます。

AIエージェントは企業に三つの大きな価値をもたらします。第一に社内外の膨大な情報を収集・分析し、最適なアクションを支援します。第二に複数ツールやシステムと連携し、業務をエンドツーエンドで代行します。第三に専門知識やスキル不足を補い、人材不足という課題解決にも貢献します。これにより、業務効率化やコスト削減はもちろん、意思決定の迅速化、顧客体験の向上、企業競争力の大幅な強化も期待できます。

株式会社グローバルインフォメーションの調査によれば、世界のAIエージェント市場は2024年の51億ドルから2030年に471億ドルへ急成長し、年平均成長率44.8%と予測されます。日本企業が各領域でこの新しい波を正しく捉えることは、日本経済全体の活性化、そして再び世界をリードする大きなチャンスです。

AIエージェントは単なる業務効率化のツールではありません。企業の成長を加速させ、新たな価値創造を可能にし、企業の競争優位性確立に寄与するものです。この変化を捉え未来をデザインするリーダーシップが求められます。同時に、AIエージェントが実現する価値を育むことが、人口減少、少子化など日本が抱える構造的な課題を解決する大きなうねりをもたらすと考えます。

▶▶ 次回リレートーク

安田 結子

ボードアドバイザーズ  
取締役副社長